

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	弘前医療福祉大学
設置者名	学校法人弘前城東学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
保健学部	看護学科	夜・通信	—	16	100	116	13	—
	医療技術学科 作業療法学専攻	夜・通信			96	112	13	—
	医療技術学科 言語聴覚学専攻	夜・通信			84	100	13	—
(備考)								
学年進行で教育課程の変更途中であるため、上記に標記されている授業科目の単位数は1年生の新課程の教育課程である。								
旧課程								
2年生	学部等共通科目				11 単位			
	専門科目 看護学科				106 単位	合計	117 単位	
	専門科目 作業療法学専攻				91 単位	合計	102 単位	
	専門科目 言語聴覚学専攻				84 単位	合計	95 単位	
3年生	学部等共通科目				14 単位			
	専門科目 看護学科				106 単位	合計	120 単位	
	専門科目 作業療法学専攻				91 単位	合計	105 単位	
	専門科目 言語聴覚学専攻				84 単位	合計	98 単位	
4年生	学部等共通科目				14 単位			
	専門科目 看護学科				106 単位	合計	120 単位	
	専門科目 作業療法学専攻				91 単位	合計	105 単位	
	専門科目 言語聴覚学専攻				84 単位	合計	98 単位	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/2020_List_of_class_subjects_by_teachers_with_the_work_experience_university.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	弘前医療福祉大学
設置者名	弘前城東学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://university.hirosakiuhw.jp/disclosure/pdf/r02/2_Donation_Officer-list.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人理事長	2020.4.15 ～2024.4.14	コンプライアンス
非常勤	株式会社役員	2020.2.2 ～2024.2.1	社会連携
非常勤	株式会社従業員	2020.4.15 ～2024.4.14	国際・情報
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	弘前医療福祉大学
設置者名	学校法人弘前城東学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書を作成するために、「授業概要(シラバス)作成の要領」を作成している。その内容は、「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」とシラバスの役割についての説明、実務経験のある教員、授業の目的、授業の到達目標、関連する科目、準備学修、使用テキスト、参考文献、成績評価の方法および基準、課題に対するフィードバック等の記載方法となっている。また、講義、演習および実習に分けたシラバスの記載例を掲載している。</p> <p>授業科目担当者は、「授業概要(シラバス)作成の要領」を参考に授業計画書を作成し、適正に記載してあるかどうか、教務委員会を中心に学科長も含め確認作業を行い、記載内容の改善等を担当教員へ指示している。</p> <p>授業計画書の作成は、12月から2月にかけて、公表は4月にシラバスの他、ホームページに掲載している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>授業概要(シラバス)作成の要領 https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/2020_hu_hw_syllabus_how_to_make.pdf</p> <p>保健学部看護学科シラバス https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/20HUHW_Syllabus_ns.pdf</p> <p>保健学部医療技術学科シラバス https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/20HUHW_Syllabus_mt.pdf</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

シラバスに「授業の目的」及び「授業の到達目標」を記載し、「成績評価の方法および基準」の項目を設け、その内容に従い評価し、単位を与えている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPAは、履修登録した授業科目の単位数に当該科目の5段階評価(4.0~0.0までの点数:GP)を掛け、その総和を履修層単位数の合計で割った平均点とします。なお、計算値は小数点第2位までとし、小数点第3位以下を切り捨てるものとします。不合格(GP=0.0)の判定を得た場合もGPAの対象に含むものとします。

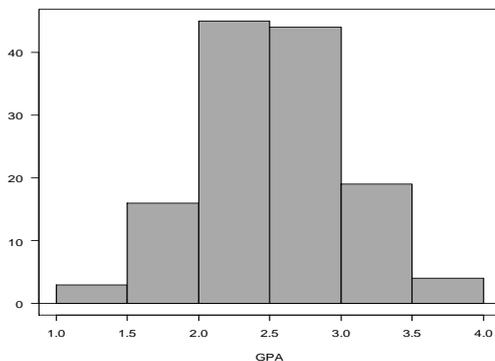
GPAの指標や計算方法に関する取り決めについてはホームページで公開している。また、GPAは本学独自のホスピタリティー奨学金制度の選考基準のひとつにもなっている。さらに、保健学部の国家試験の可否を基に分析した結果から、GPA2.5未満の学生については面談を実施すると共に、学修支援を行う。

GPAの記述統計

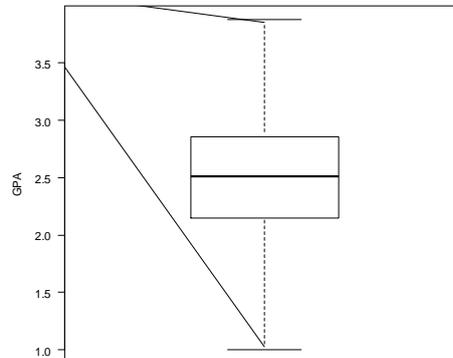
【分析対象】2019年度 保健学部 1学年 【学生数】131名

【結果】中央値 2.51 (第1四分位 2.15 第3四分位 2.86)

ヒストグラム



箱ひげ図



下位4分の1: GPA2.15以下 (34名)

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>単位の認定および GPA について https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/19HUHW_prospectus.pdf#page=50</p> <p>GPA の分布（保健学部 1 学年） https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/2019_hu_hw_GPA.pdf</p> <p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/policy/daigaku_dp_20200325.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

弘前医療福祉大学では、建学の精神であるホスピタリティー精神を基盤として、地域に暮らす人々に寄り添いながら、健康に関連する生活の質を維持・向上させ、幸せを感じられるような支援を実践することができる態度と能力を身に付け、かつ各学科・専攻が定めた卒業所要単位を修得した学生に学士の学位を授与する。

学科、専攻ごとに「卒業認定・学位授与の方針」を策定し、公表している。

《保健学部看護学科》

看護学科では4年以上在籍し、所定の履修規程に従って卒業所要単位（保健師教育課程139単位、看護師教育課程125単位）を修得すると共に、以下の能力を身に付けた学生に「学士（看護学）」の学位を授与する。

- 1 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした、豊かな人間性とホスピタリティー精神を身に付けている。
- 2 看護における専門分野の活動に必要な知識・技術を体系的に修得し、問題を解決することができる。
- 3 個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち、地域の人々の健康生活を支援することができる。
- 4 研究的態度を持ち、よりよい看護学の研究開発に向けた視点を追求し、人々の健康生活に貢献することができる。

《保健学部医療技術学科作業療法学専攻》

作業療法学専攻は、4年以上在籍し、所定の履修規程に従って卒業所要単位（教養科目23単位、専門基礎科目34単位、専門科目74単位（臨床実習23単位を含む。）、計131単位）を修得すると共に、以下の能力を身に付けた学生に「学士（作業療法学）」の学位を授与する。

- 1 ホスピタリティー精神と総合的な判断力をもって科学的に問題を解決することができる。
- 2 作業療法に必要とされる研究能力を身に付け、専門的な知識・技術によって作業療法の発展に寄与することができる。
- 3 保健・医療・福祉の連携による地域貢献を実践することができる。

⑩ 2019（令和元）年度以前の入学生：教養基礎科目22科目、専門基礎科目35単位、専門科目70単位（臨床実習20単位）、計127単位

《医療技術学科言語聴覚学専攻》

言語聴覚学専攻では、4年以上在籍し、所定の履修規程に従って卒業所要単位（教養科目24単位、専門基礎科目44単位、専門科目62単位（臨床実習12単位を含む。）、計130単位）を修得すると共に、以下の能力を身に付けた学生に「学士（言語聴覚学）」の学位を授与する。

- 1 生命の尊厳と人権の尊重を基盤に、個々の問題に主体的に対応することができる。
- 2 言語聴覚療法に必要とされる研究能力を身に付け、専門的な知識・技術によって言語聴覚療法の発展に寄与することができる。
- 3 他の専門職や一般市民と連携しながら、総合的に実践することができる。

⑩ 2019（令和元）年度以前の入学生：教養基礎科目23単位、専門基礎科目46単位（臨床実習12単位）、計130単位

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/policy/
daigaku_dp_20200325.pdf](https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/policy/daigaku_dp_20200325.pdf)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	弘前医療福祉大学
設置者名	弘前城東学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://university.hirosakiuhw.jp/disclosure/pdf/r01/fcr01-06.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://university.hirosakiuhw.jp/disclosure/pdf/r01/fcr01-04.pdf
財産目録	https://university.hirosakiuhw.jp/disclosure/pdf/r01/fcr01-07.pdf
事業報告書	https://university.hirosakiuhw.jp/disclosure/pdf/r01/fcr01-08.pdf
監事による監査報告(書)	https://university.hirosakiuhw.jp/disclosure/pdf/r01/fcr01-09.pdf

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称 : _____ 対象年度 : _____)
公表方法 :
中長期計画 (名称 : _____ 対象年度 : _____)
公表方法 :

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法 : https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/jikotenken/jikotenken2018_huwh.pdf

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法 : https://www.jihee.or.jp/kikanbetsu/2015/52hirosaki_university_of_health_and_welfare.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保健学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hirosakiuhw.jp/faculty/hoken/ ） （概要）
《保健学部看護学科》 1 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした精神を養い、個人を尊敬する心を育む。 2 看護における基礎的知識と基本的技術の習得を目指す。 3 地域で暮らす人々の健康の段階の援助ができる理論と技術の習得を目指す。 4 人びとのライフステージにおける健康問題に関する支援ができる能力を育成する。 5 協調と連帯の精神を育み、地域の人々が健康で明るく豊かな生活が送れるように支援できる人材を育成する。 6 保健医療福祉のあらゆる場で質の高いケアが提供できる人材を育成する。 7 研究的態度を持ち、常に科学的に追求し、創造し、社会に貢献できる能力を育成する。
《保健学部医療技術学科》 1 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした精神を養い、個人を尊敬する心を育む。 2 作業療法・言語聴覚における基礎的知識と基本的技術の習得を目指す。 3 地域で暮らす人々の健康の障がいの程度に応じ、自立を支援できる理論と秘術の習得を目指す。 4 人びとの日常生活における心身の健康障がいに関し、医療専門職として作業療法・言語聴覚の支援ができる能力を育成する。 5 協調と連帯の精神を育み、地域の人々が積極的に社会活動・参加できる生活が送れるよう心身の支援ができる人材を育成する。 6 保健医療福祉のあらゆる場で質の高いケアが提供できる人材を育成する。 7 研究的態度を持ち、常に科学的に追求し、創造し、社会に貢献できる能力を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/policy/daigaku_dp_20200325.pdf ）
（概要） 《保健学部看護学科》 看護学科では、4年以上在籍し、所定の履修規程に従って卒業所要単位（保健師教育課程 139 単位、看護師教育課程 125 単位）を修得すると共に、以下の能力を身に付けた学生に「学士（看護学）」の学位を授与する。 1 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした、豊かな人間性とホスピタリティー精神を身に付けている。 2 看護における専門分野の活動に必要な知識・技術を体系的に修得し、問題を解決することができる。 3 個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち、地域の人々の健康生活に貢献することができる。 4 研究的態度を持ち、よりよい看護学の研究開発に向けた視点を追求し、人々の健康生活に貢献することができる。 ⑩ 2019（令和元）年度以前の入学生：保健師教育課程 134 単位、看護師教育課程 128 単位

《保健学部医療技術学科作業療法学専攻》

作業療法学専攻では、4年以上在籍し、所定の履修規程に従って卒業所要単位（教養科目 23 単位、専門基礎科目 34 単位、専門科目 74 単位（臨床実習 23 単位を含む。）、計 131 単位）を修得すると共に、以下の能力を身に付けた学生に「学士（作業療法学）」の学位を授与する。

- 1 ホスピタリティー精神と総合的な判断力をもって科学的に問題を解決することができる。
 - 2 作業療法に必要とされる研究能力を身に付け、専門的な知識・技術によって作業療法の発展に寄与することができる。
 - 3 保健・医療・福祉の連携による地域貢献を実践することができる。
- ④ 2019（令和元）年度以前の入学生：教養基礎科目 22 単位、専門基礎科目 35 単位、専門科目 70 単位（臨床実習 20 単位）、計 127 単位

《保健学部医療技術学科言語聴覚学専攻》

言語聴覚学専攻では、4年以上在籍し、所定の履修規程に従って卒業所要単位（教養科目 24 単位、専門基礎科目 44 単位、専門科目 62 単位（臨床実習 12 単位を含む。）、計 130 単位）を修得すると共に、以下の能力を身に付けた学生に「学士（言語聴覚学）」の学位を授与する。

- 1 生命の尊厳と人権の尊重を基盤に、個々の問題に主体的に対応することができる。
 - 2 言語聴覚療法に必要とされる研究能力を身に付け、専門的な知識・技術によって言語聴覚療法の発展に寄与することができる。
 - 3 他の専門職や一般市民と連携しながら、総合的に実践することができる。
- ④ 2019（令和元）年度以前の入学生：教養基礎科目 23 単位、専門基礎科目 46 単位、専門科目 61 単位（臨床実習 12 単位）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/policy/daigaku_cp_20200325.pdf）

（概要）

《保健学部看護学科》

- 1 ホスピタリティー精神を基盤とした豊かな人間性を身に付け、看護職としての「知識」、「技術」、「態度」を学ぶために、教養科目には、「生命と人間の理解」、「人間生活の理解」、「健康と環境の理解」、「科学的思考の基盤」、「言語とコミュニケーション」の 5 分野で構成する科目を配置した。
- 2 入学早期から看護学への関心を高めるためとともに、専門分野で必要な知識・技術を修得し、問題を解決することができる能力を身に付けるために、「専門基礎科目」、「専門科目」を 1 年次から取り入れ、基礎から応用へと看護学を学べるように配置した。
- 3 保健医療福祉システムの中で、専門領域の多職種との連携・統合活動の重要性を理解し、専門職としての基礎的能力を育成するために、専門基礎科目は、「人間の身体と精神の理解」、「健康・疾病・障がいの理解」、「健康維持・回復支援」を配置した。
- 4 専門科目は、看護職として、地域特性を十分に理解し、人々の健康を支援するとともに、健康生活に貢献するための方法を実践・探求することができる能力を身に付けるために、「基盤看護学」、「健康回復支援・連携実践看護学」、「ヘルスプロモーション看護学」3 分野に科目を配置した。
- 5 看護に求められる社会の多様なニーズに応えるべく、将来的に広い視野で新たな看護学を体系化し発展させる能力を獲得できるように専門科目に「統合・発展看護学」を配置した。
- 6 保健師教育は選択制とし、保健師、看護師それぞれの専門性と相互の連携共働に関する

る必修科目は2年次に、保健師課程の専門科目は3年次、4年次に配置した。

《保健学部医療技術学科作業療法学専攻》

- 1 1年次から2年次には、ホスピタリティー精神を基盤として豊かな人間性と幅広い教養と自立的な学習態度を身に付け、作業療法の基礎技法・知識・態度を学ぶために、教養科目として、「生命と人間の理解」、「人間と生活の理解」、「健康と環境の理解」、「科学的思考の基盤」、「言語とコミュニケーション」を配置する。
- 2 1年次から3年次には、作業療法を実践するための基礎となる専門基礎科目として、「人体の構造と機能及び心身の発達」、「疾病と障がいの成り立ち及び回復過程の促進」、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」、対象者を的確に評価するための技術を学ぶための専門科目として、「基礎作業学」、「作業療法評価学」、「作業療法治療学」を積み上げ型の構成で配置する。
- 3 3年次に医療・福祉・保健の連携による地域貢献への理解を深めるための専門科目として、「地域作業療法学」、自己の将来の進路を見据え2年次に学んだ専門科目をより深く学ぶための選択科目を「作業療法治療学」の中に配置する。
- 4 2年次に学んだ「作業療法学」の知識と技術の応用力を強化するために、3年次の専門科目である「臨床実習」の中に臨床評価実習を配置する。
- 5 作業療法士として必要な基礎臨床能力（態度・知識・技能）を身に付けるために、4年次の専門科目である「臨床実習」の中に総合臨床実習を配置する。
- 6 3年次から4年次に柔軟で科学的な思考力を養いながら作業療法学を統合するために、「作業療法の探求」を配置する。

《保健学部医療技術学科言語聴覚学専攻》

- 1 1年次から2年次には、ホスピタリティー精神を基盤として豊かな人間性と幅広い教養と自立的な学習態度を身に付け、言語聴覚療法の基礎知識・技術・態度を学ぶために、教養科目として、「生命と人間の理解」、「人間と生活の理解」、「健康と環境の理解」、「科学的思考の基盤」、「言語とコミュニケーション」を配置する。
- 2 1年次から3年次には、言語聴覚療法を実践するための基礎となる専門基礎科目として、「基礎医学」、「臨床医学」、「臨床歯科医学」、「音声・言語・聴覚医学」、「心理学」、「言語学」、「音声学」、「音響学」、「言語発達学」、「社会福祉・教育」を積み上げ型の構成で配置する。
- 3 1年次から4年次には、言語聴覚障がいの専門的な知識を学び、保健・医療・福祉と連携し、言語聴覚障がいのある人の社会参加を支援できる人材育成の専門科目として、「言語聴覚障がい学総論」、「失語・高次脳機能障がい学」、「言語発達障がい学」、「発声発語・嚥下障がい学」、「聴覚障がい学」を配置する。
- 4 4年次には、言語聴覚士として必要な基礎陳勝能力を身に付けるために、専門科目である「実習」の中に臨床実習を配置する。
- 5 社会の多様なニーズに応え、将来的に広い視野で新たな言語聴覚学の視点を模索し、言語聴覚学を体系化する能力を育成するために専門科目として、「言語聴覚学の発展」を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://university.hirosakiuhw.jp/pdf/policy/daigaku_ap_20200325.pdf)

(概要)

《保健学部看護学科》

- 1 求める学生像
看護、保健等に深い関心があり、研究的態度と自主性をもって学習できる学生
(1) 将来、看護師、保健師として、人々の健康生活に貢献したいと考えている学生
(2) 地域活動などを通して、自身の人間性を高め、様々な人々と接することができる学

生

- (3) あらゆる事象に対して、知的探求心をもって自主的に粘り強く取り組むことのできる学生
- 2 入学までに身に付けておいてほしいこと
 - (1) 看護は、人々との関係性を重視した職種である。そのためには読む、書く、聞く、話すコミュニケーション能力が重要であり、その基盤となる国語および英語の基礎学力
 - (2) 看護学を学ぶために必要な理科系（特に生物・数学）の基礎学力
 - (3) 健康にかかわる職種であることから、自らの正しい生活習慣

《保健学部医療技術学科》

1 求める学生像

作業療法又は言語聴覚療法に対する科学的な研究心が旺盛で、自主的に学習する意欲と情熱に溢れた学生

2 入学までに身に付けておいてほしいこと

- (1) 相手の話を正確に理解し、自分の考えを相手に伝えられるコミュニケーション能力の基礎となる国語と英語の学力
- (2) 思考力に関わる数学の基礎学力
- (3) 生体の構造や機能、運動を理解するために必要な理科の学力

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.hirosakiuhw.jp/disclosure/disclosure_daigaku/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
保健学部看護学科	—	9人	1人	5人	8人	0人	23人
保健学部医療技術学科	—	8人	1人	7人	3人	1人	20人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		73人					73人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://university.hirosakiuhw.jp/kyoinsyokai/index_ks.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保健学部	120人	132人	110.0%	480人	468人	97.5%	0人	0人
合計	120人	132人	110.0%	480人	468人	97.5%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保健学部	99人 (100%)	0人 (0%)	97人 (98%)	2人 (2%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
就職先： JCHO 仙台病院、青森敬仁会病院、あおもり協立病院、青森市民病院、青森新都市病院、青森慈恵会病院 岩手医科大付属病院、いわてリハビリテーションセンター、小樽掖済会病院、恩方病院、介護老人保健施設 ケンゆのかわ、介護老人保健施設すずかけの里、介護老人保健施設ハートランド、介護老人保健施設は くじゅ、上板橋病院、川久保病院、川崎市立井田病院、川崎市立多摩病院、久喜すずのき病院、健生病院 国保旭中央病院、国立病院機構あきた病院、国立病院機構弘前病院、済生会横浜南部病院、白岡中央総合 病院、総合リハビリ美保野病院、市立札幌病院、市立横手病院、タムス市川リハビリテーション病院、タ ムス浦安病院、千葉徳洲会病院、千葉西総合病院、つがる総合病院、手稲溪仁会病院、東京慈恵会医科大 学附属第三病院、東京品川病院、東邦大学医療センター大橋病院、東邦大学医療センター大森病院、西堀 病院、日本医科大学病院武蔵小杉病院、日本医科大学附属病院、能代山本医師会病院、函館共愛会病院				

函館新都市病院、函館中央病院、函館渡辺病院、八戸整形外科、平塚共済病院、弘前記念病院、弘前大学
医学部附属病院、弘前脳卒中・リハビリテーションセンター、古川星陵病院、宮古第一病院、村上病院
山形県病院事業局、山梨リハビリテーション病院、幼児発達支援センター大空

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
保健学部	102人 (100%)	89人 (87%)	2人 (3%)	11人 (10%)	0人 (0%)
合計	102人 (100%)	89人 (87%)	2人 (3%)	11人 (10%)	0人 (0%)
（備考）2016年度入学者					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>（概要）</p> <p>作成要領に沿ってシラバスを作成し、全授業科目において、各回の授業内容と授業の方法（講義、演習、実習等）について記載している。また、作成したシラバスは教務委員と学科長で内容の確認を行い、必要に応じて修正している。シラバスは全学生に配布し、ホームページでも公表している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>（概要）</p> <p>定められた授業科目を履修し、シラバスに記載のある「授業の目的」、「授業の到達目標」、「成績評価の方法および基準」に従った試験等によって評価し、単位を認定している。卒業認定については卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけ、かつ卒業所要単位を修得した者に教授会の議を経て学長が卒業を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	看護学科	125 単位	①・無	50 単位
	医療技術学科 作業療法学専攻	131 単位	①・無	50 単位
	医療技術学科 言語聴覚学専攻	130 単位	①・無	50 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：https://www.hirosakiuhw.jp/outline/campusmap/ https://university.hirosakiuhw.jp/library/</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
保健学部	看護学科	870,000 円	250,000 円	520,000 円	教育充実費 300,000 円 実験実習費 200,000 円 厚生費 20,000 円
	医療技術 学科	870,000 円	250,000 円	520,000 円	教育充実費 300,000 円 実験実習費 200,000 円 厚生費 20,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学修支援体制として、教務部と学生部による支援体制に加えて、看護学科、医療技術学科作業療法学専攻、医療技術学科言語聴覚学専攻ではクラス担任制を設けている。また、入学定員の多い看護学科では、担任制度に加えてグループアドバイザー制を設けている。クラス担任・副担任及びグループアドバイザーは、定期的に学生面談を実施し、学生の学修状況の把握に努め、適宜、指導・助言を行っている。なお、クラス担任、グループアドバイザー、その他の教員は、学生が所属するそれぞれの学科・専攻との情報共有が必要であると判断した場合、学科長又は副学科長に情報提供を行い、学科会議又は専攻会議で学生の学修に関する情報を共有し、学科・専攻全体での支援に努めている。</p> <p>さらに、1年次前期に1クラス10名程度で行う基礎ゼミナールを設け、自立的な学習態度、文章作成能力、発表能力、討論能力、プレゼンテーション能力、課題発見能力、コミュニケーション能力を高め、学修に必要な基礎的能力を養っている。また、教務部では新入生全員に対して前期授業開始前にガイダンスを実施し、大学での学修について学生便覧を用いて詳細を説明している。その他、前期・後期開始時に学科・専攻オリエンテーションを実施し、各学年の学修に関する説明や助言の実施している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>就職支援委員会と就職支援室を設置し、通年で、全学的にキャリア支援を実施している。就職支援委員会は、各学科・専攻の資格情報や就職動向等に詳しい専任教員と学生部職員数人で組織され、学生の就職及び進学指導に関すること、キャリアガイダンスやイベントに関すること、求人先開拓に関すること等を協議するとともに、求人情報の円滑な提供と就職情報の共有に努めている。就職支援室は、求人情報の整理と発信、個別の就職相談、就職活動支援等を行っている。また学生部は、卒業生の就職後の実態調査や職場へのアンケート調査を通して、キャリア支援の更なる充実のために、情報を提供している。また、平成28(2016)年度は「キャリアガイダンス」のための冊子を作成した。本冊子には、社会で求められる力、ビジネスマナー、自己理解、コミュニケーションスキル、学びと仕事、ライフデザイン等、本学の学生の就職活動及び社会人として必要と考えられる多彩な情報を網羅しており、平成30(2018)年度以降、教養基礎科目の「生活の教養」で教科書として使用された。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>保健管理室、学生相談室を設置し支援している。保健管理室は、室長(歯科医師)、副室長(看護師・カウンセラー)、室員(看護師3人・養護教諭1人)が担当している(養護教諭以外は兼任)。その他学校医を置いている(兼任)。保健管理室は10:00~17:00の間開室し、養護教諭が常駐して、学生の対応に当たっている。主な業務は、年度初めの健康診断、学生の健康相談・管理、けが・体調不良時の応急処置、保健指導、学校感染症の予防、臨床実習前の感染症防止対策に向けた予防接種の啓発・管理、各種証明書の発行等である。肥満や高血圧、Ⅱ型糖尿病の学生もおり、継続的な生活習慣の指導が求められ、保健管理室においても、継続した保健指導に力を入れている。また、自己管理と言う視点から血圧計・体重計を設置し、定期的な測定を勧めている。</p> <p>また、年度初めに実施される定期健康診断の際には、健康診断項目以外に血圧測定も行い、その他にも、既往歴や通院状況・学習や対人関係の困難さを把握するために、保健調査を実施している。特に1年次の学生には健康診断の事後指導の際、丁寧な聞き取りも行い、身体的にも精神的にもハイリスクと思</p>

われる学生や、継続した支援を希望する学生の情報は、本人の許可を得て、各学科と共有している。

本学では、臨床実習に支障が生じないように、学校医の指導に基づき、入学予定者及び臨床実習を控えた学生に対して、各種感染症に対する抗体価検査及び予防接種の義務づけ(又は推奨)を行っている。学生相談室では、カウンセラー資格を有した教員が、相談業務を担当している。カウンセラーが兼任であるため、相談は、基本的には予約制をとっている。相談室の利用者は、学生・保護者・担当教員で、相談室での対面相談に留まらず、電話又はメール等による相談も行っている。相談内容は、対人関係に関する相談、学修困難・修学支援に関する相談、進路変更に関する相談、発達障害に関連した相談等、多岐に及んでいる。必要に応じて、学校医や医療機関等の外部の専門機関と連携を取っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.hirosakiuhw.jp/disclosure/disclosure_daigaku/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。